

★年次大会併催公開講演会（聴講無料） 『オープンWeb時代の映像情報メディアサービス』

9月1日（月）13:30～17:00

大阪大学吹田キャンパス 銀杏会館阪急電鉄・三和銀行ホール

（最寄り駅：大阪モノレール阪大病院前駅）

Webの普及は、企業ホームページに代表される広告宣伝としての媒体から、検索連動レコメンデーションのように個人別にカスタマイズされた商品・サービス提供の場への発展を経て、インターネットを一大商業基盤として社会に定着させてきました。また、旧来のメディアでは困難であった、個人による映像情報発信や、SNSに見られるコミュニティでの情報流通、さらには個人間のコミュニケーションとしてもWebの利用が一般化してきています。

本公開講演会は、各方面の代表者の方々にWebサービスと技術の最新動向をご講演いただき、こうしたWebの普及による変化が映像メディアに与える影響、及び新たに切り開かれる技術的・商業的・社会的な地平を一般の方々にも広くご理解いただく機会となっています。

【プログラム】1件40分程度

13:30～13:35 (1) 開催の挨拶 酒澤茂之（調査担当理事／KDDI研究所）

13:35～14:15 (2) Web技術と標準化政策
深津真二（総務省通信規格課）

14:15～14:55 (3) 放送とWeb標準化の最新動向
芦村和幸（W3C/慶應大学）

14:55～15:35 (4) ハイブリッドキャストの進化
武智 秀（NHK技研 ハイブリッド放送システム研究部）

15:35～16:15 (5) 局横断型放送連動システム「SyncCast」の開発とマルチスクリーン型放送研究会が
取り組むOAトライアルについて
濱口 伸（毎日放送 経営戦略室）

16:15～16:55 (6) 震災復興と情報メディア
クロサカタツヤ（株式会社 企）

16:55～17:00 (7) 閉会の挨拶 酒澤茂之（調査担当理事／KDDI研究所）

※予稿集を当日会場で配布いたします。

※他の講演を聴講される場合は、総合受付にて大会参加登録が必要となります。

★関西支部企画（聴講無料）

『KTVテクニカルフェア2014』

「宇宙開発」から「医療」まで、最先端の映像情報技術が次代を拓く！

8月31日（日）

関西テレビ 本社1Fなんでもアリーナ（大阪市北区扇町2-1-7 関テレ扇町スクエア）

対象者：映像情報メディアに関心、興味を持つ社会人および学生

内容：講演会、展示会、実証実験

◎公開市民講演会（事前エントリーが必要です）

定員：400名程度

申込方法：<http://www.ktv.jp/kantec/> からお申し込みください。

【プログラム】

13:00～13:05 挨拶 西岡和広（関西テレビ放送）

（2014映像情報メディア学会年次大会関西支部実行委員長）

13:05～13:50 【基調講演】「やれる理由」を見つけて挑戦する

川口淳一郎（JAXA）

日本人は、しっかりと、きちんとしなくては、という意識が強すぎて、どうしても新しいことへ挑戦することに躊躇(ちゆうちよ)してしまいがちです。やらなくてよいのではないか。そうではありません。前例があることだけを追ってはいけなくて新しい成果を得ることはできません。どうしたら、できるのか、やれるのか。それに積極的に答えを見つけていくことが前進につながるのです。「やれる理由をみつけて挑戦しないかぎり成果は得られない。」若いみなさんが、この意識をもつことが、日本の将来を握っています。

13:50～14:30 SELENE（かぐや）が見たもの

春山純一（JAXA）

日本の月探査SELENE（セレーネ、愛称「かぐや」）は、2007年に打ち上げられ、1年半にわたる観測で素晴らしいデータを送ってきました。それらデータから多くの科学成果、将来の月利用の道を拓く成果が得られています。本講演では、学会でもあまり紹介する機会のないデータ・成果をもとに、「SELENEがみたもの」を、紹介いたします。

14:30～15:10 可視化可触化技術による直感的医療の最前線

杉本真樹（神戸大学）

医療映像情報メディアにおける可視化と可触化を目指した最新技術研究を紹介する。

医療映像、特に内視鏡映像や手術映像は、高精細・高解像度化がすすみ、4K・8K映像から立体視、360度全天球画像など、従来見えないものまで可視化できるようになり、その提示法も高度化が進んだ。またデジタル画像のコンピュータ解析により、virtual realityによる医療画像診断や医療情報をICTインフラにのせ、高速に大容量の伝送が可能になった。これらを拡張現実(augmented reality)や複

合現実感(mixed reality)として重量表示する技術も、医療で広く活用されている。さらに磁場センサーや赤外線センサーによるナビゲーション手術、遠隔ロボット手術や3Dプリンターによる生体質感造形技術も既に臨床現場で活用されつつある。医療現場という制限の厳しい環境でも、インターフェイス技術の進歩により、ジェスチャーコントロールやモーションセンシング、ウェアラブルなどの技術が実現されている。これらの直感的医療における「可視化・可触化」技術の最前線を解説する。

休憩 10分

15:20～16:00 テレビジョン：過去・現在・未来

桜井 優（名古屋工業大学）

講演者は、30年間（株）東芝にてテレビの研究開発に携わってきました。

テレビの過去としては、高柳健次郎氏の世界で初めてのテレビジョンの成功から、1970年代半ばまでのテレビ受信機の開発の歴史を簡単に振り返ります。

テレビの現在としては、講演者の経験してきた30年間のテレビの研究開発について、現場からの視点で語ります。具体的には、当時、夢として語られていた、4つのテレビに関する研究テーマ：(1)テレビ電話、(2)壁掛けテレビ、(3)絵の出るレコード、(4)HDTV、の4つについて、研究開発者達がどのような努力を払ってその夢を実現してきたか、それらの研究開発の成果が、現在のエレクトロニクス産業にどのような影響を与えてきたかについて、世にあまり知られていないエピソードなども交えながら詳細に紹介いたします。

テレビの未来については、現在の日本のテレビ産業の苦境を分析しつつ、テレビの持つ本質、特にディスプレイの発達、高精細化、ネットとの関連、テレビの家庭における位置付けから、その将来像について予測をしてみたいと思います。

16:00～16:40 4k放送の現状

今井 豊（スカパーJSAT）

4K放送の現状について最新情報をご紹介します。

16:40～17:00 4K・8Kへの取り組み

並川 巖（関西テレビ放送）

◎技術展示コーナー 11:00～18:00

8K伝送実験、4K・8K上映 [8K展示協力：NHK]

KTV技術開発展示

- ・エリア放送波を使用したMPEG-DASH 4Kストリーミング配信
- ・放送通信連携アプリ「せんたく」
- ・エリア放送+IPDC+Hybridcast対応テレビ
- ・地上波4K放送を想定したHEVC伝送実験
- ・画像処理によるクロマキーカット割りシステム
- ・FPUファイル伝送システム
- ・フェイストラッキング技術を用いたマラソンランナーのピッチ計測システム

- ・可搬型非常用UHF帯伝送・放送装置
- ・取材伝送車「8べえ」（非常時は展示できない場合があります）
- ・セカンドスクリーン・最新アプリ紹介

◎Hybridcastにふれよう/ 体験コーナー 11:00～18:00

放送と通信が連携した新しいサービスHybridcastに対応したテレビを並べ、ご来場の皆さまにHybridcastとはどういうものかをご理解いただくとともに実際に体験していただきます。

【主催】関西テレビ放送，映像情報メディア学会

【後援】近畿総合通信局

【協賛】大阪大学大学院工学研究科 近畿情報通信協議会

【事務局】関西テレビ放送技術推進部，映像情報メディア学会事務局

★シンポジウム1 [\(Web公開資料\(4件目:北原先生\)はこちら\)](#) 『スポーツ映像処理』

9月1日（月）9:00～12:05 E1棟1階 第1会場

スポーツ映像処理はスポーツ信号処理の一分野であり，近年注目を浴びてきている．超高精細映像（例えば8K映像）や超高速撮影映像などの撮影・表示技術の進化に伴い，下記の分野において，今後の発展が期待される．

- (1) 運動解析とその応用
- (2) チームによる競技スポーツのための戦略構築とその映像システム
- (3) スポーツ映像配信のための新サービス

運動解析では，よく知られているアスリートによる運動を対象とした映像から得られる情報だけでなく，IoTセンサ等の開発によって得られる心肺，筋肉，反射神経など生理情報及びスピードなどの運動による物理情報と，これらと映像情報を組み合わせた運動解析が，今後ますます重要なものとなる．

また，アスリート以外にも，いわゆる一般の運動実践者に着けられたカメラ（いわゆるウェアラブルカメラ）を解析するによって得られた情報は，例えば，一般の健康管理や健康寿命の促進など，将来の映像技術のみならず，スポーツ科学にとっても新発見となる可能性が十分にある．

チームによる競技スポーツでは，現在，戦略が試合をする上で重要なものと位置付けられており，映像からのゲーム分析などが近年益々重要視されている．

一方で，映像コンテンツ制作の面からは，スポーツ映像やゲームの新しい見せ方，特に追従型映像や，ステレオ画像及び自由視点映像などを含んだ研究とその発展は，体育・スポーツ分野の発展につながるものとして，スポーツ関係者からも期待される所である．

このようにスポーツ映像処理は，これからの発展が大いに期待される分野であり，また，2020年東京オリンピック・パラリンピックも考慮に入れると，超高精細・超高速撮影技術を有する日本にとって，これらに関連する技術力を世界へ向けてアピールできる機会となる等，本学会における重要な研究課題として位置づけられる．

今回のシンポジウムの趣旨は、スポーツのための映像処理並びにトレーニングの観点から、スポーツ情報処理のエキスパートの方々に講演いただき、スポーツ関連分野の研究者と直接的相乗効果を期待しながら、スポーツ映像処理・スポーツ信号処理の新研究分野を開拓することにある。

【プログラム】

司会：渡辺 裕（早稲田大学）

09:00～09:05 Opening ～シンポジウム開催に際して～

09:05～09:40 スポーツ映像における運動・戦術解析と中継映像制作

小沢慎治（慶応大学 名誉教授）

競技スポーツの分野では、フォーム解析、戦術解析が必要とされている。古くは目視および、録画映像を利用していたが、近年では画像解析技術が盛んに利用されている。一方画像処理技術では移動物体の追跡技術が選手またはボールの追跡に利用され、人体モデルに基づいた動作解析が行われている。また戦術解析においては競技のルール、戦術を反映した処理プログラムが作成される。本稿では戦術解析と中継映像制作のいくつかの事例を述べる。

09:40～10:15 画像信号処理に基づく体育・スポーツの解析

角田 貢（日本体育大学 情報科学群 情報学研究室）

スポーツにおける競技の高度化へ向けて、スポーツ科学等の研究の重要性と伴に、スポーツの動作分析やゲーム分析における画像の利用は必須である。この画像は、いわゆる有名アスリートによるもののみならず、近年、一般の運動実践者によるもの等、各種センサーが搭載可能な携帯端末等の技術発展によって対象/場所/時間を問わず広範囲からの情報の蓄積が可能である。

競技スポーツでは、実践的戦術が重要であるため、ゲーム分析や動作分析の研究が進められている。これらの分析においては、画像が様々な形で用いられており、この際に、体育・スポーツの研究者やその実践者が直観的に理解できるように、画像処理が予め組み込まれた表示ツール等もある。ゲーム分析では、競技中の画像から得られる情報に基づいた分析が行われている。今後、競技や分析技術の一層の高度化へ向けて、実践に耐えうる戦術を構築することが重要であり、著者は、これ迄に主としてバドミントンについての情報戦略の支援について、共同研究を進めてきた。

本講演では、このような理論的観点を出発点として、体育大学における運動競技部の部長として部活運営に携わった経験も踏まえて、フィールド競技のひとつであるラクロスのゴール後方のスペースも攻撃の起点となるラクロスにおける攻撃側選手のポジショニングについての解析事例を紹介する。この解析の結果、それぞれの選手のポジショニングについて角度 $2\pi/3$ となることが明らかとなった。また、この戦術に対する分析を仮定した考察を行った。

更に、2020年東京オリンピック・パラリンピックへ向けて、特に、1チームが比較的多数で行われるフィールド競技において、本研究にて提案するようなアルゴリズムが実装されている映像システムの開発が重要であることについても言及する。

10:15~10:50 An Imaging System and its application from the perspective of Education
for Athletic Trainer (ATのための映像とその教育への応用)

Tokuyoshi KONO (Nippon Sport Science University, Athletic Training Lab.)

アスリートを支えるアスレティックトレーナー（以下AT）が注目されている。近年、その社会的ニーズや役割の高まりに伴ってATを志す者が年々増加傾向にあり、将来へ向けて、ATが日常的に利用可能な映像情報システムを構築することは重要である。映像がATの経験値を高められる有効な教育ツールとなり、このような環境を利用することによって、一定レベル以上の高い能力を有するATを、より多く輩出することにつながれると考えている。

ATが果たすべき役割における最重要課題は、外傷・障害の予防である。一回の外力により生じた損傷である外傷には、脱臼、骨折、打撲などがあり、これらを完全に予防することは困難である。一方で障害は、一回の外力は小さいが同じ部位に繰り返シストレスが加わることによって生じる。障害の殆どは、通常の正しいスポーツ動作から、筋力、柔軟性、関節不安定性などの身体的因子を原因とした運動エネルギーの伝達における破綻が生じた結果、身体の特定期位に何らかのメカニカルストレスがかかることによって生じる。以上のことを念頭に置いて、ATは、アスリートの動作を日常的/定期的
に観察し続けることが大切である。また同時に、このようなATと共に、アスリートは、競技スポーツにおいて正しいとされる動作から逸脱している動作を自覚し、そのスポーツを一定期間（長期的に）継続する上で障害となる動作や、この発生原因の予防となりうる（適切な）修正を行うことで、外傷・障害の対策を行える。

これまでのスポーツの現場では、スポーツ動作について、バイオメカニクスの見地から映像が用いられており、主に二つの目的で応用されている。ひとつは、競技力向上を目的としたものであり、スポーツ科学の知見に基づいて、いわゆるトップアスリートと呼ばれる選手の動作を分析し、力学的に効率の良い動作を追求するものである。もう一つは、障害予防に役立てることを目的として、スポーツ医学の知見に基づいて、特定期位にメカニカルストレスがかかるような誤ったスポーツ動作を観察するためのものである。しかしながら、スポーツ動作を日常的に撮影し、映像による確認も行うとするATには、本来のATとして果たすべき目的以外の負担が生じることになる。これは大変な負担であり、ATにとって、アスリートとしてのスポーツ動作を観察し、正しい動作と誤った動作の違いを見極める能力が必須である。

現在、トレーナー経験豊富なATは、スポーツ動作において幾つかのチェックポイントを決めて観察することをできて、一方、経験の浅いATは、スポーツ動作をポイントとして正確に捉えることを行えていない。これら両者の違いは、一般に、経験値が高い低いと表現されるものであるが、これまで、ATに必要なとなっているスポーツ動作を観察するための能力向上は、経験に依存するところが大きく、この経験値を高めるために時間（年数や対応した症例数）を要しているという実情がある。

将来、この経験値を一定レベルまで有効に高められる手段のひとつに、動画映像を繰り返し見ることが考えられる。このためにスポーツ医科学の見地からのチェックポイント等の情報を付加することや、ATにとって、更には、メカニカルストレスのかからないスポーツ動作を見極められて、自身のスポーツ動作のチェックポイントや障害予防を追求することでパフォーマンス向上へつなげられるアスリートにとっても、わかりやすい3D表示等のシステムが必要である。

本講演では、アスレティックトレーナーのための映像とその教育への応用と題し、現状のAT教育の問題点を明らかにして、この解決のために映像をAT教育に応用することについて述べる。また、2020年開催の東京オリンピック・パラリンピックへ向けて、各競技に専属のATが必要な状況にあり、現在、高いレベルを有するATの育成は、早急に解決されるべき課題となっている。このような観点からも映像情報システムの実現可能性について議論を期待する。

10:50～11:25 スポーツ映像処理による動作解析とゲーム分析への応用

菅田雅彰（早稲田大学 スポーツ科学学術院）

スポーツ動作解析やゲーム分析においてビデオ映像が広く用いられている。本発表では、ビデオ映像処理を中心としたスポーツ動作解析方法とボール競技を対象としたゲーム分析への応用について紹介する。スポーツ動作解析では、バスケットボールにおけるフリースロー動作を対象として、プレイの成否を特徴づける動作特徴の自動抽出、および動作特徴からのプレイ成否の自動識別について述べるとともに、動作解析に基づくプレイ成否の客観的判断と人による主観的判断との比較について述べる。また、ゲーム分析では、フットサルやサッカー競技を対象として、ビデオ映像からの選手位置の自動検出法、選手の走行パフォーマンスの定量的評価やプレイの成否とフォーメーションとの因果関係などについて述べる。

11:25～12:00 自由視点映像技術のスポーツ分野への応用

北原 格（筑波大学 システム情報系・計算科学研究センター）

多視点映像を計算機内部で統合し、任意の視点からの見え方を再現する自由視点映像の研究は、新しい視覚効果を実現可能な技術として、CG映像産業で注目を集めた。21世紀になり、映像機器やネットワークが急速に発展するのに伴い、自由視点映像生成技術をスタジオ外で行われるイベントに適用する試みが見られるようになってきた。本発表では、我々が15年に渡って取り組んでいる、スポーツシーンを対象とした自由視点映像生成提示技術について、技術的な課題や将来展望を交えて、紹介する。

12:00～12:05 Closing ～今後の展開について～

★シンポジウム2（アントレ研）（1件目のみ予稿(アブストラクト)あり） 『小さな気付きとイノベーション』

9月2日（火）13:00～17:20 E1棟2階 第4会場

我々が普段生活しているいたるところで小さな気付きがある。この小さな気付きが重要であり、これをきっかけにイノベーションにつながるケースが多い。今回のアントレ研シンポジウムにおいては、「医療」「製造」「教育」等の現場における気付きにより創造されたイノベーションの事例研究をとおして、どのようなプロセスでイノベーションが起きたか、また、どのように起こせるかを議論する。

【プログラム】 [招待講演4件]

13:00～13:05 開会挨拶 平野 真（アントレ研究会委員長／芝浦工大）

司会： 林 泰仁（NTT-AT）

13:05～14:05 身体健康維持・向上を担うバランス調整法による潜在患者の掘り起しと啓蒙戦略
～代替医療との提携による歯科医療分野の拡大と患者獲得について～

清見好伯（臨床補綴技工研究所）

14:05～15:05 日本のファスナー開発の歴史から
竹倉 徹（芝浦工大大学院）

休憩 10分

※岡部様（3番目）と崔様（4番目）の講演順番が入れ替わりました。

15:15～16:15 日英高等教育現場から気付きとイノベーション：映像情報メディアの革新性と破壊性
崔 裕眞（立命館大大学院）

16:15～17:15 空間シェアリング技術の社会実装に向けた実証実験
岡部周平・善本哲夫（立命館大大学院）

17:15～17:20 閉会挨拶 富澤 治（アントレ研究会前委員長）

2014年年次大会一般講演題目一覧

○印は登壇者

1件20分（講演15分，質疑応答4分，PC切替および座長による紹介1分）

*印はフレッシュパーソン

第1部門 メディア工学（応用）

9月1日（月）9:50-12:00 第2会場

座長：金子 豊（NHK）

- *1-1 携帯端末群の撮影方位情報のリアルタイム収集システムに関する検討
○本山史明・東海彰吾・森岡貴義（福井大）
- 1-2 スマートフォンと固定カメラを併用した屋内環境における移動履歴の獲得
○今西健児（阪大），伊藤義道（大阪電通大），中村和晃・小野 士・馬場口登（阪大）
- 1-3 HTML5を用いたHTTPストリーミングにおけるセグメント分割に関する一検討
○清水智行（KDDI研）

休憩（10:50-11:00）

座長：清水智行（KDDI研）

- 1-4 4K動画を用いた移動無線ネットワーク上でのDASH配信評価
○原田臨太郎・黒川沙代・竹中幸子・武藤健史・金井謙治・甲藤二郎（早大）
- 1-5 時系列放送番組のタグを使ったザッピング視聴用システムの試作
○金子 豊・竹内真也・黄 民錫・苗村昌秀（NHK）
- 1-6 MXFにおけるUMIDの応用
○柴田賀昭（メタフロンティア合同会社）

第2部門 メディア処理 (基礎1)

9月1日 (月) 9:30-11:40 第3会場

座長: 望月貴裕 (NHK)

- 2-1 Parametric meets inclined local NBNN: 確信度とNBNNを用いたBoFベース画像認識の精度向上
○山崎俊彦・前田嵩樹・相澤清晴 (東大)
- 2-2 品目毎の存在位置を考慮した食食品目認識
○高松幸広・相澤清晴 (東大), 小川 誠 (foo.log)
- 2-3 QAIR: Question and Answer based Image Retrieval
○Saemi CHOI・Toshihiko YAMASAKI・Kiyoharu AIZAWA (Univ. of Tokyo)
- * 2-4 Measurement of attention diversity in cooking situation
○Du Bang・近藤一晃・吉本廣雅・中村裕一 (京大)

休憩 (10:50-11:00)

座長: 山崎俊彦 (東大)

- 2-5 物体認識を利用した映像検索システム
○河合吉彦・望月貴裕・住吉英樹 (NHK), 藤原 忍 (日本IBM)
- 2-6 震災映像アーカイブス検索システムへの類似画像検索技術の適用
○望月貴裕・河合吉彦・住吉英樹 (NHK)

第3部門 コンピュータビジョン

9月1日 (月) 9:00-12:10 第5会場

座長: 根岸博康 (三菱電機)

- 3-1 Automatic Object Tracking in Soccer Video using Attribute Matching
○Houari SABIRIN・Hiroshi SANKOH・Sei NAITO (KDDI Labs)
- * 3-2 ナビゲーションシステムのための車載カメラ画像からの道路状況推定
○百合本瑞規・榎並直子・有木康雄 (神戸大)
- 3-3 特徴点の類似度尺度による対応付けを伴わないカメラ位置姿勢推定手法の検討
○黒川陽平・中島悠太・佐藤智和・横矢直和 (奈良先端大)
- 3-4 固視微動型カメラ回転による画像ボケからの3D復元における低周波成分抑圧の効果
○佐藤恩子・田川憲男・大久保寛・何 宜欣 (首都大)

休憩 (10:20-10:30)

- 3-5 2枚の車載カメラ画像からの視点変更画像生成に関する検討
○石川 諭・小林祐一 (静岡大), 金子 透 (東大), 石原 進 (静岡大), 山下 淳 (東大)
- * 3-6 多段露出画像群を用いたShape From Focus法の高精度化
○土出 衛・仲野 豊・吉田俊之 (福井大)
- 3-7 人物集合の分裂と結合を考慮した疎分散カメラ環境における実時間人流解析
○赤井亮太・新田直子・馬場口登 (阪大)

- 3-8 固有空間法に基づいた眼領域画像からの視線推定法の検討
○安藤俊博・亀田裕介・松田一朗・伊東 晋（東京理科大）
- 3-9 静止画像の半自動2D-3D変換における奥行き伝搬処理の高速化
○中村有揮・松田一朗・亀田裕介・伊東 晋（東京理科大）

第4部門 ヒューマンインフォメーション1

9月1日（月）9:45-12:00 第6会場

座長：澤島康仁（NHK）

- 4-1 HEVCコーデック／4K8Kディスプレイの性能評価のための専用動画テストパターンの開発
○川原 功・田端宏至（計測技研）
- 4-2 大画面4Kディスプレイにおける表示輝度とViewing Gammaの好適条件
○窪田 悟（エルゴデザイン研究所）
- 4-3 超高精細度テレビの主観画質評価における観視条件の検討
○日下部裕一・正岡顕一郎・西田幸博（NHK）

休憩（10:45-11:00）

- 4-4 近赤外分光法を用いた映像の解像度の違いによる生体情報と主観品質の関連性の検討
○和泉紘介・吉野知伸・内藤 整（KDDI研），高本考一・西条寿夫（富山大）
- 4-5 没入型ディスプレイにおける高所表現での周辺映像の影響
○井上哲理（神奈川工科大），柴田隆史（東京福祉大）
- 4-6 生体生理信号の共分散構造分析によるサイバー酔いの強度の推定
○加藤幸洋・柿本剛志・井上康之・河合敦夫・井須尚紀（三重大）

第5部門 デモセッション

9月1日（月）11:00-12:30 第7会場

- 5-1 シーン判定に基づくウェアラブルデバイス連携BGMプレイヤー
○石先広海・服部 元・滝嶋康弘（KDDI研）
- 5-2 専用動画テストパターンによる4K8Kシステムの動的特性定量化と評価の効率化
○川原 功・田端宏至（計測技研）
- 5-3 静止した2次元実対象を運動情報によって錯覚的に変形させる光投影手法
○河邊隆寛・澤山正貴・丸谷和史・西田真也（NTT）

第6部門 放送方式1 (素材の伝送・配信)

9月1日 (月) 9:40-11:00 第8会場

座長：村田英一 (京大)

- 6-1 Diffservモデル映像伝送網のための帯域管理システム
○小田周平・遠藤洋介 (NHK)
- 6-2 放送通信同期合成のための大規模プッシュ配信における配信サーバ選択手法
○田中 壮・西村 敏・遠藤洋介 (NHK)
- 6-3 時空間MIMOと空間多重MIMOの移動受信における伝送特性の野外実験による比較
○成清善一・宮坂宏明・中村円香・実井 仁・高田政幸 (NHK)
- 6-4 TVMLを利用したTVと情報端末連携に関する検討
○土生谷隆弘・早見拓朗・藤田欣裕 (愛媛大)

第7部門 ヒューマンインタフェース

9月2日 (火) 9:00-12:10 第1会場

座長：山内結子 (NHK)

- 7-1 高ダイナミックレンジ (HDR) 映像技術 ~ 高画質映像技術 ~
○堀 明宏 (ドルビージャパン)
- 7-2 ハンドジェスチャー認識による機器操作の一検討
○神谷雅志・中村雄大・福田智教・内藤正博・南 浩次 (三菱電機)
- * 7-3 決定木を用いた日本語手話における指文字の認識
○原田直人・張 英夏・向井信彦 (東京都市大)
- 7-4 実空間における適応型サービスのための情報エントリーシステム
○小野 士・中村和晃・馬場口登 (阪大)
- 7-5 机上行動のライフログのための行動認識
○貴志一樹・山崎俊彦・相澤清晴 (東大)

休憩 (10:40-10:50)

座長：神谷雅志 (三菱電機)

- 7-6 視聴状況に基づいた興味内容推定システムの試作
○山内結子・奥田 誠・高橋正樹・サイモン クリッピングデル・苗村昌秀 (NHK)
- 7-7 テレビ視聴者の顔表情と興味ワードの関係分析
○奥田 誠・高橋正樹・クリッピングデル サイモン・山内結子・苗村昌秀 (NHK)
- 7-8 教育コンテンツにおける字幕効果が及ぼす学習理解度への影響
○高山伸也・酒澤茂之 (KDDI研), 愛澤伯友 (名古屋学芸大)
- * 7-9 Browsing of concentration by capturing learner's behaviors in e-learning
○Siyang YU・Kazuaki KONDO・Hiromasa YOHIMOTO・Yuichi NAKAMURA・Masatake DANTSUJI
(Kyoto Univ.)

第8部門 放送現業

9月2日(火) 9:10-12:00 第2会場

座長：甲斐 創 (日本テレビ)

- 8-1 動きベクトルを応用した地震発生時の映像を自動切り出しする24時間地震収録システムの開発
野上隆司・片野正徳・○小池 中 (関西テレビ)
- 8-2 ローカル番組への字幕付与方式の提案
○佐藤庄衛・尾上和穂・小林彰夫・奥 貴裕・藤田悠哉・一木麻乃・荒井 孝 (NHK)
- 8-3 クルムス®蛍光体を用いた白色LED照明器具の開発 ～目にやさしく演色性のよい新しい光源～
○宮崎正之・河野 勝・杉浦智保 (NHK) , 大長久芳 (小糸製作所)
- 8-4 クロマキーカット割りシステムの開発
○栗山和久 (関西テレビ)

休憩 (10:30-10:40)

座長：西澤伸一 (フジテレビ)

- 8-5 小型衛星伝送装置を搭載した多機能型取材伝送車の製作
○栗山和久 (関西テレビ)
- 8-6 地震映像を自動で取得する蓄積型IP伝送装置の開発
○浅野 隼・日下部武志 (NHK松山) , 小田周平 (NHK)
- 8-7 ロードレース中継用FPUアンテナの改良および新周波数移行に向けた取り組み
○上田達也・村上文弘 (NHK大阪) , 小郷直人 (NHK)
- 8-8 フェイストラッキングを用いたマラソンランナーのピッチ計測システムの開発
○松岡泰助 (関西テレビ)

第9部門 センシング1

9月2日(火) 10:20-12:00 第3会場

座長：大竹 浩 (NHK)

- 9-1 撮像デバイス用有機光導電膜へのC60添加による分光感度スペクトルへの影響
堺 俊克・○瀬尾北斗・大竹 浩 (NHK) , 松崎隆哲・江上典文 (近畿大)
- 9-2 電界集束型FEA-HARPの電子ビーム取り出し効率の改善
○本田悠葵 (NHK/静岡大) , 難波正和・宮川和典・久保田節 (NHK) , 江上典文 (近畿大)
- 9-3 画素並列信号処理撮像デバイスに適用可能な直接接合を用いた立体構造回路の試作
○井口義則・後藤正英・萩原 啓・大竹 浩 (NHK) ,
更屋拓哉・日暮栄治・年吉 洋・平本俊郎 (東大)
- 9-4 Development of Imaging Device Using Electric Field Modulation Method
for Time-Resolved Measurements
○Min-Woong Seo (Shizuoka Univ. /JSPS) , Zhuo Li・Keita Yasutomi・Keiichiro Kagawa・
Shoji Kawahito (Shizuoka Univ.)
- 9-5 デジタル一眼レフカメラを使った高解像度マイクロCTの開発
○梅谷啓二 (高輝度光科学研究センター) , 河田佳樹・仁木 登 (徳島大)

第10部門 【テーマ講演】4K・8K時代のコンテンツ制作

9月2日（火）10:00-11:50 第4会場

座長：藤井憲作（NTT） ※10-1と10-2 発表順番が入れ替わりました。

- 10-2 8K SHV用22.2ch音響制作システムの開発
○西口敏行・森 千晶（NHK），小野一穂（NHK-ES），大久保洋幸（NHK）
- 10-1 22.2ch音響のためのコンテンツ制作技術と音響表現
緒形慎一郎（NHK），○山口朗史（NHKメディアテクノロジー）
- 10-3 22.2マルチチャンネル音声信号の受信機におけるダウンミックス手法
○杉本岳大・入江健介・大出訓史・中山靖茂・渡辺 馨（NHK）

休憩（11:00-11:10）

- 10-4 フルスペック8Kスーパーハイビジョンカメラによるロケーション撮影実験
○米内 淳・林田哲哉・北村和也・山下誉行・西田幸博（NHK）
- 10-5 HDTV素材をSHVコンテンツ制作に活用する最大16倍の高精細化技術
～ 空間方位認識の視覚モデルによる映像の高精細化 ～
○久下哲郎（NHK-ES），勝山加代子（アーク情報システム），境田慎一（NHK）

第11部門 実世界センシングと環境理解

9月2日（火）9:00-10:00 第5会場

座長：日浦慎作（広島市大）

- 11-1 レーザ距離センサを用いた台車用動線可視化システムの構築
○松本高斉（日立），榎 修一・正木良三・高橋一郎（日立産機システム）
- 11-2 照明情報を計測するハイブリッドセンサーの一検討
○加藤大一郎・武藤一利（NHK-ES），三ッ峰秀樹（NHK），
岡本浩幸・Alessandro Moro（ライテックス）
- 11-3 映像合成のためのカラーセンサカメラによるリアルタイム照明推定手法
○盛岡寛史・大久保英彦・三ッ峰秀樹（NHK）

第12部門 自然な映像表現のための基盤技術

9月2日（火）10:05-11:05 第5会場

座長：馬場雅志（広島市大）

- 12-1 対話CGキャラクターの感情表現に関する一検討
○井上誠喜（NHK），道家 守（NHK名古屋），比留間伸行（NHK）
- *12-2 デプスカメラを用いた個人向けビデオチャットにおけるロバストな視線補正
○中村新芽・山崎俊彦・相澤清晴（東大）
- 12-3 AR空間における立体モデル生成手法の検討
○阿部直樹・向井伸治・福崎健志（前橋工科大）

第13部門 ARのための位置姿勢推定技術

9月2日（火）11:10-12:10 第5会場

座長：井上哲理（神奈川工科大）

- 13-1 カメラとジャイロセンサーを用いたTV画面の位置と姿勢の推定方法
○川喜田裕之（NHK/東工大），中川俊夫（NHK），佐藤 誠（東工大）
- 13-2 光学式シースルー型HMDのためのカメラ姿勢予測を用いた位置合わせ
○巻渕有哉・小林達也・加藤晴久・柳原広昌（KDDI研）
- 13-3 ドラマ番組VFXのための頑健なカメラパラメータ推定法
○三ッ峰秀樹・盛岡寛史（NHK），武藤一利・加藤大一郎（NHK-ES），兼沢将人（NHK）

第14部門 ヒューマンインフォメーション2

9月2日（火）9:20-11:55 第6会場

座長：近藤一晃（京大）

- ~~14-1 映画色彩芸術のメタファーに関する研究（発表中止）~~
~~○張一聡（名古屋大）~~
- *14-2 CIELAB色空間における色の類似度分布に関する研究
○吉野剛史・張英夏・向井信彦（東京都市大）
- 14-3 テレビCMに付与された字幕の評価
○福島孝博（追手門学院大）
- 14-4 Analysis of Group Meeting Discussion within a Distributed Team
～ Quantitative Comparison of Face-to-face and Remote Attendees by Case Study ～
○Jianfeng XU・Shigeyuki SAKAZAWA（KDDI Labs）

休憩（10:20-10:35）

- 14-5 デスクワークにおける主観的集中度とPC 操作ログの関係分析
○永井有希・徐 建鋒・酒澤茂之（KDDI研）
- 14-6 高次脳機能障がい者の認知リハビリテーションのための調理中の注意行動自動評価と
振り返り支援システム
○大井 翔・佐野睦夫・水野翔太・渋谷咲月・池ヶ谷剛・杉谷正成（大阪工大），
中山佳代，大出道子・萩原摩紀（大阪府立障がい者自立センター），
杜 邦・近藤一晃・中村裕一（京大）
- 14-7 Human-robot Interface Adapting Human Sensing Technique for Daily Life Support System
○何 宜欣・下川原英理・和田一義・山口 亨・田川憲男（首都大）
- 14-8 外部データを利用した手話アニメーション自動生成システムの開発
○東真希子・宮崎太郎・井上誠喜（NHK），道家 守（NHK名古屋），
梅田修一・加藤直人・清水俊宏・比留間伸行（NHK）

第15部門 コンシューマエレクトロニクス・ストレージ・ディスプレイ

9月2日(火) 9:30-12:00 第7会場

座長：森田知宏(三菱電機)

- 15-1 光ディスク装置における球面収差とフォーカスオフセットの最適化方法
○岸上 智・金武佑介・竹下伸夫(三菱電機)
- 15-2 [Co/Pd]磁性細線における微小溝加工による磁区駆動制御
○奥田光伸(NHK/東工大), 宮本泰敬(NHK/NHK-ES), 宮下英一・斎藤信雄・林 直人(NHK),
中川茂樹(東工大)
- *15-3 シフト・ペリスタロフィック多重ホログラム多重記録数の検討
倉田博之・〇五味裕秋・吉田周平・山本 学(東京理科大)
- *15-4 球面参照波を用いた体積ホログラムの波長選択性
○塚本 悠・森 淳・吉田周平・山本 学(東京理科大)

休憩(10:50-11:00)

座長：馬場雅裕(東芝)

- 15-5 逆構造有機EL素子を用いた酸化TFT駆動フレキシブルディスプレイ
○本村玄一・中嶋宜樹・武井達哉・都築俊満・深川弘彦・中田 充・辻 博史・清水貴央・
藤崎好英・栗田泰市郎・山本敏裕(NHK)
- 15-6 大気安定な逆構造有機ELデバイスの開発とフレキシブルディスプレイへの応用
○深川弘彦(NHK), 森井克行・長谷川宗弘(日本触媒), 中嶋宜樹・武井達哉・本村玄一・
辻 博史・中田 充・藤崎好英・都築俊満・清水貴央・山本敏裕(NHK)
- *15-7 プラスチック基板をポリマー壁で保持したブルー相液晶デバイス
○坂井秀基・石鍋隆宏・藤掛英夫(東北大)

第16部門 放送方式2(超高精細映像)

9月2日(火) 9:30-12:00 第8会場

座長：三須俊枝(NHK)

- 16-1 4Kカメラ用フォーカスアジャスト機能の提案 ~ 制作現場でのフォーカス合わせ ~
○合志清一(工学院大), 伊藤秀敏(リーダー電子)
- 16-2 再構成超解像と折り返し ~ 再構成超解像の現実 ~
○合志清一(工学院大)
- 16-3 地デジ方式による4K60p放送の室内実験 ~ 現行のHD放送と同じOFDM 64QAM変調によるISDB-T地デジ
方式での, 4K60pスーパーハイビジョン放送の実現に向けての2014年5月の室内実証実験の報告 ~
○小野浩一(関西テレビ)
- 16-4 IPDCを用いたエリア放送波での4K映像素材伝送実験
○坂梨裕基・並川 巖(関西テレビ), 大山 悟(関西テレビソフトウェア)

休憩(10:50-11:00)

座長：岩本正伸（TBSテレビ）

- 16-5 エッジ強度に基づく適応補間フィルタを用いたカラーデモザイキング法
○白井規之・西田幸博（NHK）
- 16-6 スーパーハイビジョン圧縮記録技術
○菊地幸大・梶山岳士・宮下英一（NHK）
- 16-7 8K SHV放送に向けたMMT多重伝送システムの試作検証
○河村侑輝・青木秀一・大槻一博・土田健一・木村武史（NHK）

第17部門 メディア処理（基礎2）

9月2日（火）13:00-16:30 第1会場

座長：大久保英彦（NHK）

- 17-1 バイラテラル最小値/最大値フィルタによる水中写真の強調
于 子涵・○井上光平・浦浜喜一（九大）
- 17-2 エッジ保存ボロノイモザイクハーフトーニング
○井上光平・原 健二・浦浜喜一（九大）
- *17-3 風景画像における構図を考慮したカラー画像からの霧除去
○肥留間祐太・杉村大輔・浜本隆之（東京理科大）
- 17-4 マンガにおけるHOG+AdaBoostによる顔検出の性能評価
○陳 明・柳澤秀彰・張 傑・石井大祐・渡辺 裕（早大）
- 17-5 母音のスペクトル変化に基づく感情音声加工方法の検討
○今井 篤・清山信正（NHK），都木 徹（NHK-ES）

休憩（14:40-14:50）

座長：井上光平（九大）

- 17-6 画素パッチのフレーム間移動推定を利用した映像フレーム内挿手法の検討
○大久保英彦・三ッ峰秀樹（NHK）
- 17-7 多段階コストボリュームフィルタリングによる高速オプティカルフロー推定
○古田諒佑（東大），池畑 諭（ワシントン大），山崎俊彦・相澤清晴（東大）
- *17-8 リウマチ患者のレントゲン画像における骨間距離の測定とその有用性
○清水雅人・後藤富朗・平野 智・桜井 優（名工大），舟橋康治（名大）
- 17-9 マンガ画像からの顔検出におけるパーツ特徴量の一検討
○柳澤秀彰・石井大祐・陳 明・渡辺 裕（早大）
- 17-10 回転不変なHOG特徴量を用いた俯瞰画像からの人物検出
○藤本達也・亀田裕介・松田一朗・伊東 晋（東京理科大）

第18部門 画像符号化

9月2日（火）13:00-16:30 第2会場

座長：小松 隆（神奈川大）

- 18-1 4Kテレビ／デジタルシネマから8Kスーパーハイビジョンへの空間超解像法の検討
○松尾康孝・境田慎一（NHK）
- 18-2 ブロック適応色成分間予測を用いたスクリーンコンテンツ符号化
○峯澤 彰・宮澤一之・関口俊一（三菱電機）
- 18-3 DCT符号化における係数単位の内挿予測方式
○菅井修甫・亀田裕介・松田一朗・伊東 晋（東京理科大）
- 18-4 HEVC/H.265ストリーム用電子透かし技術
○小川一人・大竹 剛（NHK）

休憩（14:20-14:30）

座長：小川一人（NHK）

- *18-5 高精度動き推定に基づく低演算量な画像統合処理による空間解像度の改善
○松崎 哲・藤井翔太・菅井男也・浜本隆之（東京理科大）
- 18-6 Performance Comparison of H.265/MPEG-HEVC and VP9 Encoders for 4K Sequences
～ A discussion for 4K/8K coding method ～
○Cui WANG・Tomonobu YOSHINO・Sei NAITO（KDDI Labs）
- 18-7 冗長DCTを用いた雑音除去の演算量削減法
○小松 隆・近藤崇吾・齊藤隆弘（神奈川大）
- 18-8 冗長3次元DCTを用いたポアソンランダム動画像の復元
○近藤崇吾・小松 隆・齊藤隆弘（神奈川大）
- 18-9 等間隔シームの同時削除に基づいた静止画像の空間階層符号化
○菅原瞭介・亀田裕介・松田一朗・伊東 晋（東京理科大）
- 18-10 動画像符号化のためのDCT領域のShrinkage処理に基づいたブロック適応時空間予測
○宮本真生・亀田裕介・松田一朗・伊東 晋（東京理科大）

第19部門 【テーマ講演】医療に役立つセンサー技術

9月2日（火）13:00-14:00 第3会場

座長：大竹 浩（NHK）

- *19-1 生体埋植型PWM出力方式イメージセンサによる生体内画像伝送システムの構築
○速水 一・笹川清隆・竹原宏明・野田俊彦・徳田 崇・太田 淳（奈良先端大）
- *19-2 CMOSセンサベース蛍光方式体内埋込みグルコースセンサの機能評価
○増田啓太（奈良先端大）、高橋正幸（テルモ）、河村敏和・竹原宏明・野田俊彦・
笹川清隆・徳田 崇（奈良先端大）、興津 輝・竹内昌治（東大）、太田 淳（奈良先端大）
- *19-3 レンズレスデジタルELISA法に向けた高感度蛍光計測用CMOSイメージセンサの設計
○北口一樹・竹原浩成（奈良先端大）、笹川清隆・竹原宏明・野田俊彦・
徳田 崇（奈良先端大/JST-CREST）、Soo Hyeon Kim・飯野亮太・
野地博行（東大/JST-CREST）、太田 淳（奈良先端大/JST-CREST）

第20部門 センシング 2

9月2日 (火) 14:10-16:10 第3会場

座長：大竹 浩 (NHK)

- *20-1 自己リセット機能を備えた生体埋植用CMOSイメージセンサの開発
 - 山口貴大・須永圭紀・春田牧人・竹原宏明・野田俊彦・笹川清隆・徳田 崇・太田 淳 (奈良先端大)
- 20-2 裏面照射型CMOS型撮像素子のクロストークに関する基礎検討
 - 新井俊希・島本 洋 (NHK)
- 20-3 列並列サイクリック-逐次比較型A/D変換器の試作
 - 北村和也 (NHK/静岡大), 林田哲哉・米内 淳・安江俊夫・島本 洋 (NHK), 渡部俊久 (静岡大学/NHK-ES), 小杉智彦 (ブルックマンテクノロジー), 川人祥二 (静岡大/ブルックマンテクノロジー)
- 20-4 乗算性固定パターンノイズのリアルタイム抑圧回路の開発
 - 中村友洋・添野拓司・船津良平・林田哲哉・山下誉行 (NHK)
- 20-5 2.5型33M単板カラーセンサーを用いた8Kカメラの開発
 - 西谷匡史・太刀野順一・山崎順一 (NHK-ES), 山下誉行・船津良平 (NHK), 塚本 拓 (アストロデザイン), 秋山浩志 (池上通信機)
- 20-6 超小型8Kスーパーハイビジョンカメラのフレーム周波数120Hz化
 - 安江俊夫・北村和也 (NHK), 塚本 拓・遠藤一樹 (アストロデザイン), 島本 洋 (NHK)

第21部門 無線・光伝送

9月2日 (火) 13:00-17:10 第5会場

座長：齊藤一幸 (千葉大)

- 21-1 球面状の再帰性反射材の反射特性
 - 扇田恵梨菜・遠藤慎之介・上林洸生・木村洋介・中島広一郎・奈良 海・前田幹夫 (工学院大)
- *21-2 再帰性反射材を用いた位置ずれ検出に関する一考察
 - 原島一彰・萩原弘二・丸山泰史・岸本侑大・川崎博実・前田幹夫 (工学院大)
- 21-3 大規模数値シミュレーションに基づくデュアルバンド無線LANシステムの屋内伝搬チャネル推定
 - 大宮 学・山口将一・米澤 聡 (北大)

休憩 (14:00-14:10)

- 21-4 長波JJY電波の3次元測定
 - 日紫喜勇輔・柄松裕作・恒川諒輔・都竹愛一郎 (名城大)
- 21-5 地上デジタル放送波の到来方向推定
 - 柄松裕作・日紫喜勇輔・上松侑平・都竹愛一郎 (名城大)
- 21-6 偏波MIMO-超多値OFDM信号のIF-TTL室内伝送実験
 - 薮 拓也・齋藤 進・朝倉慎悟・斉藤知弘・渋谷一彦・濱中太郎・西野倫敦・鈴木健児 (NHK)

休憩 (15:10-15:20)

座長：倉掛卓也 (NHK)

- 21-7 地上デジタル放送におけるDD混信測定装置の試作
○村瀬泰紀・山崎雷太・宮坂宏明・白井規之・上田裕人 (NHK) ,
倉島俊樹 (デジタル放送推進協会) , 今村浩一郎 (NHK)
- 21-8 双方向FPU試作装置のTCPスループット測定
○鶴澤史貴・小山智史・光山和彦・居相直彦・青木勝典 (NHK)

休憩 (16:00-16:10)

座長：前田幹夫 (工学院大)

- 21-9 大規模ケーブルテレビ商用回線での8K・スーパーハイビジョン伝送実験
○袴田佳孝・中村直義・小山田公之 (NHK) ,
木下暢之・上園一知・渡会良仁 (ジュピターテレコム)
- 21-10 誤り訂正符号化を用いた非圧縮フル解像度スーパーハイビジョン信号光伝送装置の開発
○川本潤一郎・中戸川剛・小山田公之 (NHK)
- 21-11 大阪国際女子マラソンにおける4K60P IP伝送実験
○並川 巖・小野浩一 (関西テレビ)

第22部門 ヒューマンインフォメーション3

9月2日 (火) 13:00-17:10 第6会場

座長：川喜田裕之 (NHK)

- 22-1 カスタマイズ可能なテレビ番組表アプリの改良と評価
○上向俊晃・加藤恒夫 (KDDI研)
- 22-2 手指の構造からみたマルチタッチアクションのユーザビリティに関する一考察
○中村公美 (阪大) , 河野和宏 (関西大) , 伊藤義道 (大阪電通大) , 馬場口登 (阪大)
- 22-3 物体の形状と硬さ分布の触感覚伝達システムの開発
○半田拓也 (NHK/東大) , 藤原正浩 (東大) , 坂井忠裕 (NHK-ES) , 清水俊宏 (NHK) ,
牧野泰才・篠田裕之 (東大)
- *22-4 AR仮装飲料の視覚情報と音情報が味覚と食感に与える影響
○上田純也・増田真実・岡嶋克典 (横浜国大)

休憩 (14:20-14:35)

座長：半田拓也 (NHK)

- *22-5 瞳孔輪郭検出に基づく視軸周り眼球回転角度計測の可能性の検討
○酒井駿介・福元清剛・海老澤嘉伸 (静岡大)
- *22-6 選択された顔キーポイント特徴に基づく個人依存しにくい喜び表情認識
○佐々木康輔・有賀治樹・橋本 学 (中京大)
- *22-7 一般化ガウス分布のパラメータ推定と画像識別への応用
○森永淳史・原 健二・井上光平・浦浜喜一 (九大)

休憩 (15:35-15:50)

- *22-8 神経回路網におけるスパイク波の可視化による学習則の解明
○佐久間俊・高橋良輔・黒川正雄・藪中晋太郎 (兵庫県立大), 西谷陽志 (阪大),
水野 (松本) 由子 (兵庫県立大), 田村進一 (NBL研究所)
- *22-9 神経回路網の学習における重みの変化 ～一定方向のスパイク伝搬誘導による方向性の変化～
○黒川正雄・佐久間俊・高橋良輔・藪中晋太郎 (兵庫県立大), 西谷陽志 (阪大),
水野 (松本) 由子 (兵庫県立大), 田村進一 (NBL研究所)
- *22-10 送受間双方向刺激による神経回路網の挙動変動
○高橋良輔・佐久間俊・黒川正雄・藪中晋太郎 (兵庫県立大), 西谷陽志 (阪大),
堀尾裕幸 (兵庫県立大), 田村進一 (NBL研究所)
- *22-11 神経回路網のスパイク波の挙動に関する研究 ～刺激によるニューロン結合の強化の変化～
○藪中晋太郎・佐久間俊・黒川正雄・高橋良輔 (兵庫県立大), 西谷陽志 (阪大),
堀尾裕幸 (兵庫県立大), 田村進一 (NBL研究所)

第23部門 立体映像技術

9月2日 (火) 13:00-16:50 第7会場

座長: 陶山史朗 (徳島大)

- 23-1 複数のカメラを用いた視域拡大型インテグラル立体撮像系
○三浦雅人・岡市直人・洗井 淳・三科智之 (NHK)
- 23-2 アフォーカルレンズアレイを用いたインテグラル立体像の奥行き制御手法の検討
○中須英輔・金澤 勝・山崎順一・富田 豊・岡野文男 (NHK-ES), 洗井 淳 (NHK)
- 23-3 インテグラル立体像の奥行き位置と符号化画質に関する一検討
○原 一宏・洗井 淳・三科智之・岩館祐一 (NHK)
- 23-4 22.2ch音響プレーヤーアプリの開発
○中山靖茂・松井健太郎 (NHK)
- 23-5 立体映像による眼疲労と個人視機能特性の評価
○永谷広行 (東芝), 神田寛行・不二門尚 (阪大)

休憩 (14:40-14:50)

座長: 奥井誠人 (情通機構)

- 23-6 再帰反射によるLED空中結像(AIRR)の視域 ～再帰反射シートの角度とLED空中像の輝度の関係～
○富山裕香・陶山史朗 (徳島大), 山本裕紹 (徳島大/宇都宮大)
- 23-7 多焦点レンズ系を用いたDFD (Depth-fused 3D) 表示の評価
○谷本理沙・黒川隆文 (徳島大), 山本裕紹 (徳島大/宇都宮大), 陶山史朗 (徳島大)
- 23-8 液晶を積層した3Dディスプレイにおける多視点イメージング
○杉之原英嗣・坂本浩隆・山中 聡 (三菱電機)
- *23-9 超多眼方式を用いた網膜投影型ヘッドマウント3次元ディスプレイ
○高塚康公・吉本佳世・高橋秀也 (大阪市大)

- *23-10 プリズムシートを用いた広視域光線再生3次元ディスプレイ
○山田穂高・藪 博文・吉本佳世・高橋秀也（大阪市大）
- *23-11 ホログラフィックスクリーンを用いた全方向視差立体像表示における自動位置合わせのための画像補正法
○東田 諒・山口雅浩（東工大）

第24部門 放送方式3（ハイブリッドキャスト）

9月2日（火）13:00-16:00 第8会場

座長：古宮弘智（NHK）

- 24-1 ハイブリッドキャストにおける放送外マネージドアプリケーションの試作
○長谷川裕（テレビ朝日），
遠藤大礎・大亦寿之・馬場秋継・松村欣司・加井謙二郎（NHK）
- 24-2 ハイブリッドキャストにおける放送外マネージドアプリケーション受信機機能の試作
○遠藤大礎（NHK），長谷川裕（テレビ朝日），
大亦寿之・馬場秋継・松村欣司・加井謙二郎（NHK）
- 24-3 ハイブリッドキャスト受信機における複数の放送外マネージドアプリケーションの利用モデルの検討
○大亦寿之・遠藤大礎（NHK），長谷川裕（テレビ朝日），
馬場秋継・松村欣司・加井謙二郎（NHK）

休憩（14:00-14:10）

座長：岩本正伸（TBSテレビ）

- 24-4 ハイブリッドキャストにおける番組関連データ提供技術の検討
○広中悠樹・真島恵吾・加井謙二郎・砂崎俊二（NHK）
- 24-5 ハイブリッドキャストにおけるVOD・録画再生機能の検討
○古宮弘智・武智 秀・大亦寿之・松村欣司・砂崎俊二・加井謙二郎（NHK）
- 24-6 テレビノート ～ ハイブリッドキャストを用いた番組視聴のアノテーションと利活用 ～
○山村千草・大亦寿之・中川俊夫（NHK）

休憩（15:10-15:20）

座長：森住俊美（mmbi）

- 24-7 Wi-Fi接続マルチスクリーン端末における放送通信同期手法の検証
～ 放送基準時刻配信による高精度同期提示 ～
○大西正芳・大亦寿之・松村欣司（NHK）
- 24-8 ハイブリッドキャスト対応テレビとIPDC での柔軟な表現方法について
○坂梨裕基（関西テレビ），大山 悟（関西テレビソフトウェア）